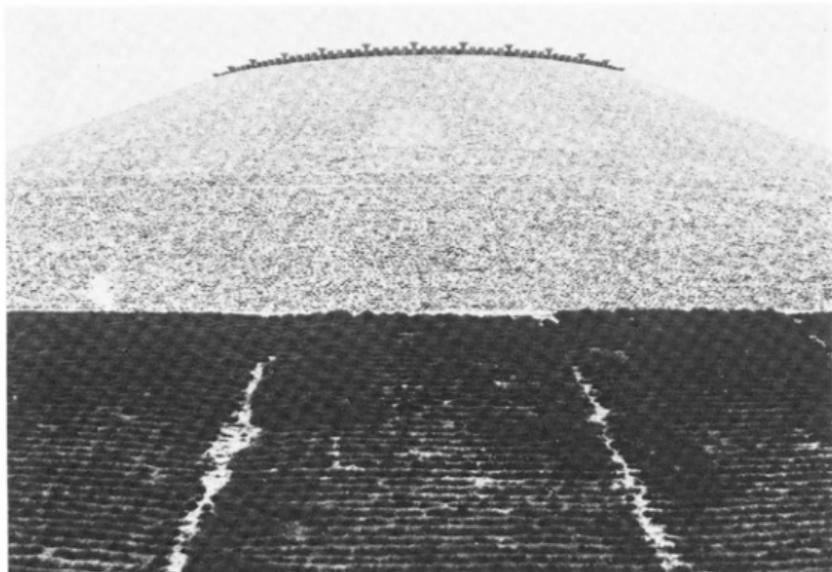




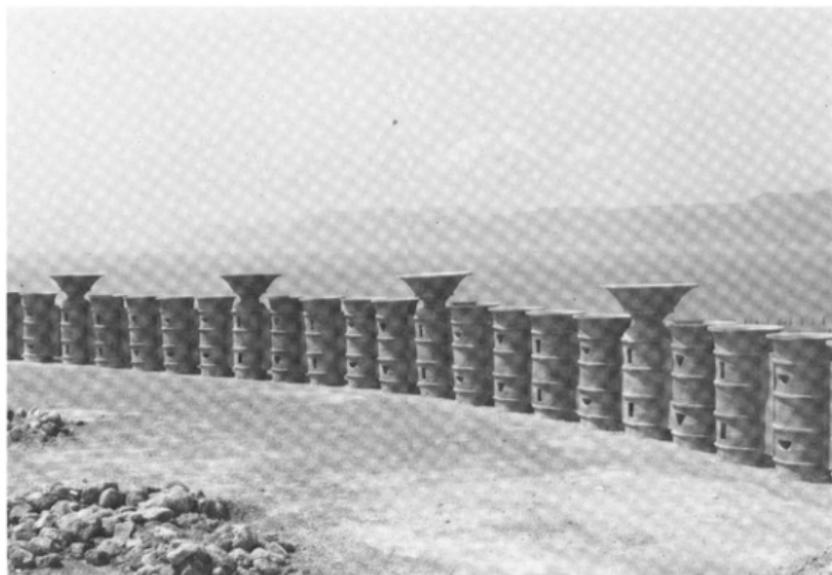
00五色塚古墳前方部頂上一南から一



00五色塚古墳前方部頂上(整備後)一南から一



71五色塚古墳後円部(整備後)一北から一



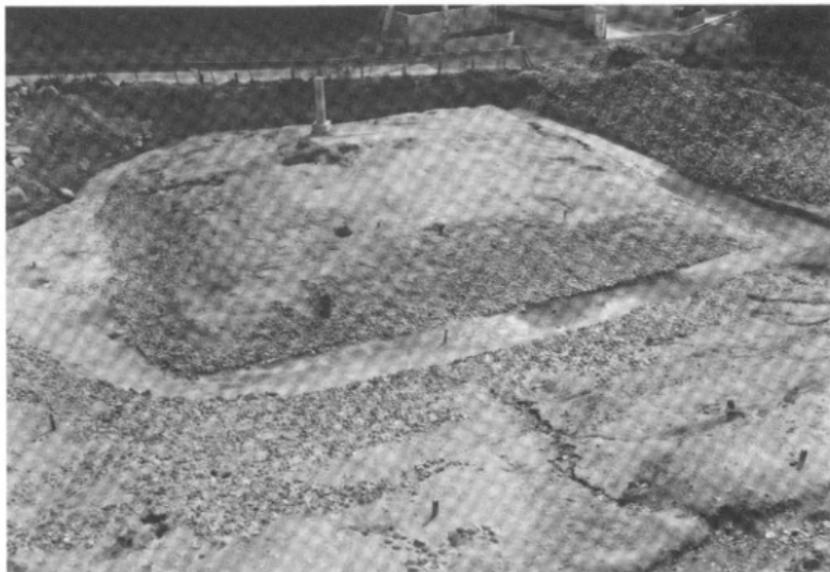
72五色塚古墳後円部頂上埴輪列(整備後)



73五色塚古墳後円部頂上埴輪列(整備後)



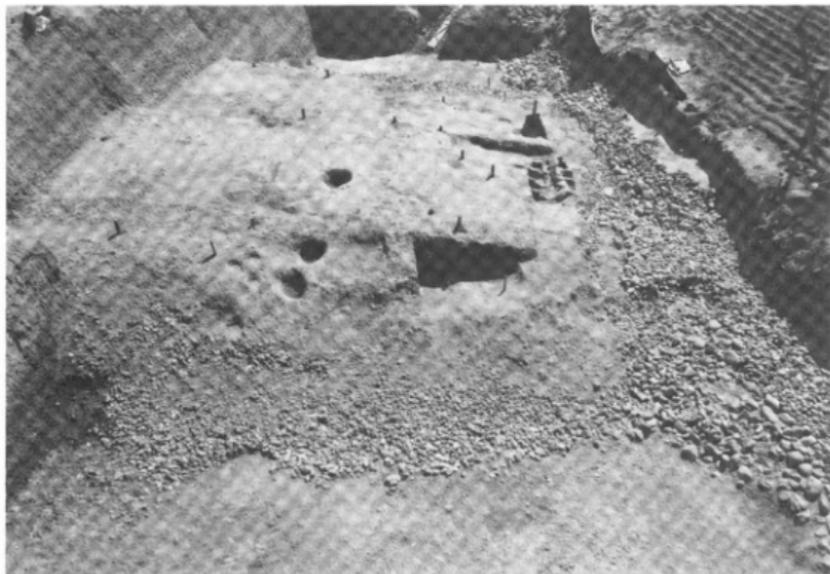
74五色塚古墳後円部頂上埴輪列(整備後)



05五色塚古墳東マウンドー北西からー



06五色塚古墳東マウンド(整備後)ー西からー



77五色塚古墳北東マウンド—北から—



78五色塚古墳北東マウンド(整備後)—北から—

小壺古墳の整備 小壺古墳の整備は、昭和47年度に工事を行った。本来は2段築成の墳丘であったが、下段の大部分が道路敷に入ってしまったため、上段・下段を保護するような形で盛土を行い、1つの斜面にしている。

調査の結果、築造当時から墓石は葺かれていなかったことが確認されたので、墳丘全体を芝張りにして整備した。



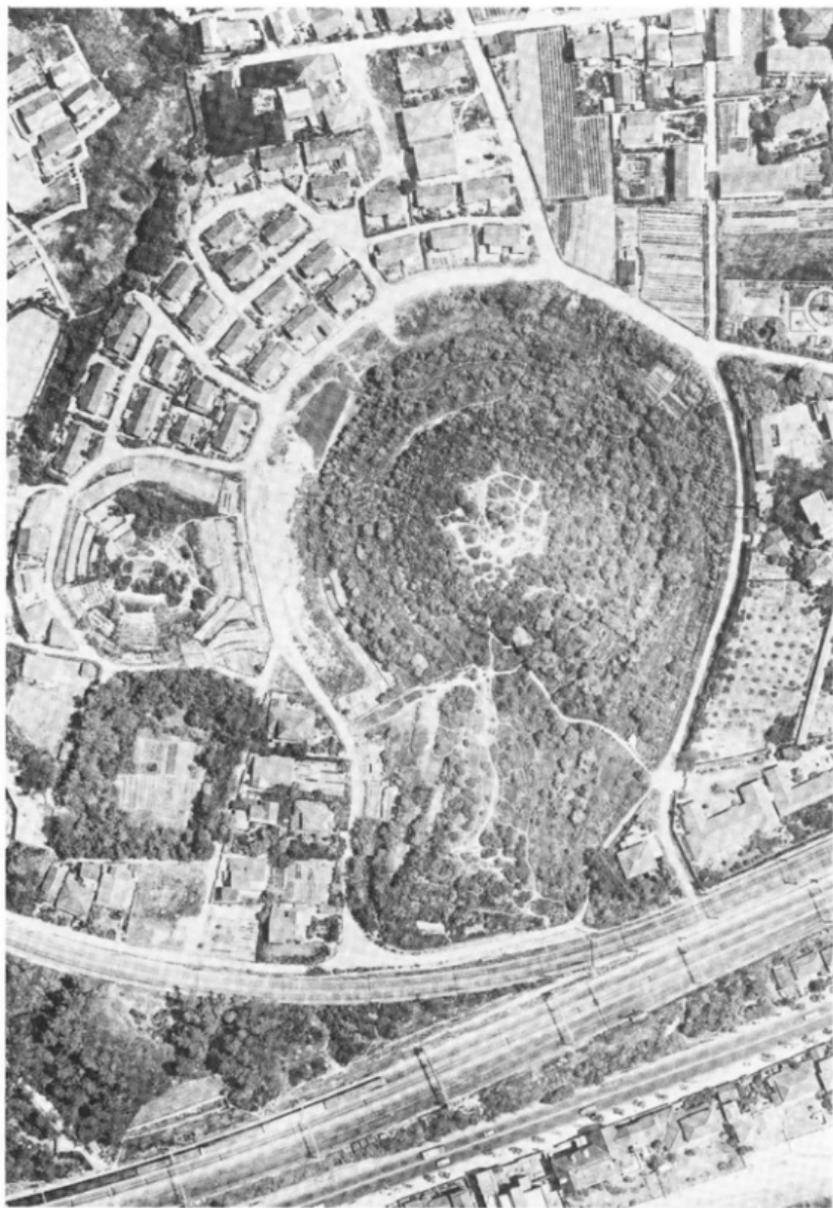
09小壺古墳東側下段一東から一



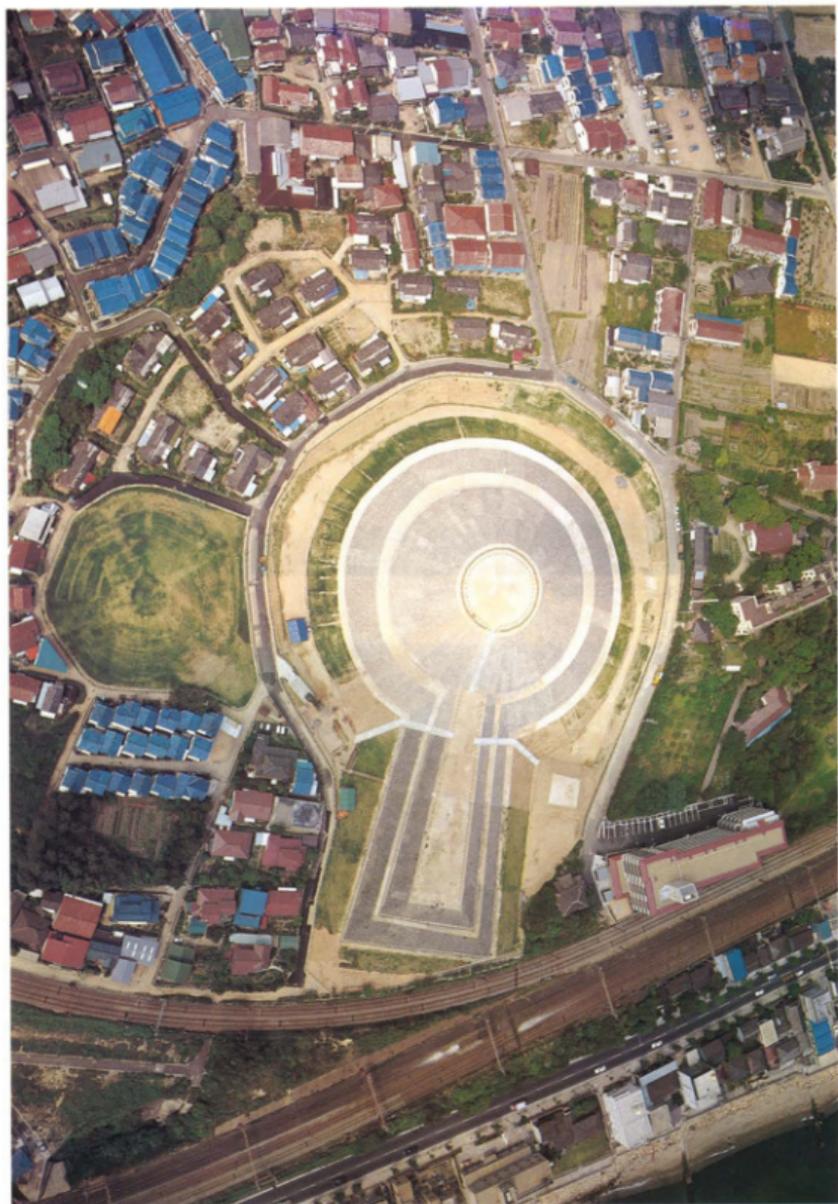
80小壺古墳—東から—



81小壺古墳(整備後)—東から—



畿五色塚古墳および小壺古墳(調査前)



83 五色塚古墳および小壺古墳(整備後)



84五色塚古墳および小壺古墳(整備後)―南東から―



85五色塚古墳および小壺古墳(整備後)―南から―



86五色塚古墳および小壺古墳（整備後）—南から—



87五色塚古墳および小壺古墳（整備後）—南から—



88五色塚古墳(整備後)―北から―



89五色塚古墳および小壺古墳―北から―



90 五色塚古墳および小壺古墳（整備後）—北東から—



91 五色塚古墳および小壺古墳（整備後）—西から—

以上のようにして、五色塚古墳・小壙古墳の墳丘を整備するとともに周濠および周濠内の施設についても整備を行った。これらの詳細については整備報告書にゆずらなければならないが、最後に、五色塚古墳前方部の昭和49年度工事で、築造当時の葺石を樹脂で固定する工法を採用したので、そのことにふれておきたい。

タックス工法

前期の整備方法は、先述したように、築造当時の葺石をそのまま利用しながら復元するという方法であったが、その後、石の落下するものが若干認められるので昭和49年度の前部復元区域で、築造当時の葺石を調査当時のまま固定するタックス工法を採用し、石の落下などを防止する方法をとっている。この工法を採用した区域は、前方部東側S7ラインから北へ21mの範囲の上・中段である。

あとがき 本書は、「史跡五色塚古墳復元・整備事業概要」（1975年発行）の改定版である。文章は、同じであるが、写真を若干入れかえて読みやすくした。

本書に使用した航空写真の一部は、神戸新聞社から提供を受けた。深謝します。

1975年8月8日第1刷発行
1976年4月30日第2刷発行
1982年3月31日改定版発行
1987年10月1日再改定版発行

史跡五色塚古墳復元・整備事業概要

広瀬印刷物産録 平成9年度 第168号 A-1編

編集 神戸市教育委員会事務局社会教育部文化課
発行 神戸市教育委員会
神戸市中央区加納町6丁目5番1号
印刷 神戸オール出版印刷株式会社
神戸市兵庫区戸原通1丁目2番38号